

大阪府環境審議会水質規制部会（第4回）議事要旨

日時：平成23年8月19日(金)13時半～16時

場所：国民會館住友生命ビル 小ホール

出席委員：池委員、海老瀬委員（部会長）、島田委員、津野委員、福原委員

議事要旨

(1) 議事1「化学的酸素要求量等に係る第7次総量削減計画及び総量規制基準について」

○第3回部会での指摘事項に関する補足説明資料を事務局が説明（資料1）

津野委員 自動分析でこうだった、手分析でこうだったと説明すると、おかしくなる。

今回の作業はあくまでも別表の基づく業種ごとに、そのデータを用いて平均点を計算しましたという話。各工場に規制されている業種ごとの値で全部負荷量を計算して、放流口の規制をやっているということ。

池委員 異常値の原因が分かっていたら教えていただきたい。

事務局 後日回答する。

津野委員 ここで検討したときに、どのデータを用いたのか、それで本当にいいのかと言われたら困る。妥当な数値に基づいて、妥当にここで判断したということの説明いただきたい。

海老瀬部会長 特殊な値や問題があるところは、立ち入り調査のときにチェックすることができる。考え方とデータをもう一度整理してもらおうということで、よいか。

津野委員 異常値は、あくまでもA社、B社、C社の中で特異な値という意味ではなく、A社ならA社の中で採用した値がほかの値と比べて通常では考えられない値であるかどうかという意味。私の質問は、複数の業種があるところで、いろいろな状況の値の数値の部分、あくまでも処理した後というのが前提になっているので、その部分をどのように考えた数値になっているのかを、聞いておきたい。

島田委員 資料4の別表の網掛けは、第6次と比べて厳しくしたものと、凡例の追記を。

○国が示した総量削減基本方針を事務局が説明(参考資料1)

海老瀬部会長 平成21年の実績値から見ると、りんを減らす率が高い。

津野委員 4の(2)の自然にある栄養分というのは何か。えさというのは。

事務局 「水質改善に資する取り組みとして」と書かれているように、海中にもともとある栄養塩を削減する養殖と思われる。

津野委員 魚類は、富栄養化になるから抜いてある。自然にある栄養源やえさは、どこまでを含めて言っているのか、非常に微妙な言い方だ。例えば、下水処理場にある栄養塩は自然にある栄養塩に入るかどうか。

事務局 東京での議論では、お魚屋さんが海に適度な栄養が欲しいために、山に木を植える全国的な運動をされて、海に適切な栄養塩を保ってほしい。そこに肥料をまくのではなくて、自然の循環を使った養殖を考えてほしいという議論は出たことがある。それを想定してこう書いたのかどうかは、分からない。

津野委員 今のところ下水放流水は入らないということでよいか。

事務局 はい。

○発生源別の削減目標量について事務局が説明(資料2)

津野委員 平成21年の実績量からいくと、少しりんが厳しくなっているが、平成26年の目標はほとんど変わらない。平成21年度は、かなり厳しい経済状況の下での負荷量。極端なことを言うと、経済がこのままなら、基準を変えなくてもほぼいける。ただ、大阪府の経済が平成21年の状態のままかどうかは、どうか。

海老瀬部会長 生活系は努力しないといけないとなっている。人口減少は、どの程度効いているのか。

事務局 平成21年度実績が880万人で、平成26年度が871万9千人。わずかな減少。

津野委員 200人以上の単独処理浄化槽は、大阪府にまだ残っているのか。

事務局 古いマンションなどが残っている。

津野委員 これがなくなると、ずいぶん違う。雑排水量が全部なくなる。

○第7次総量削減計画の在り方について、原案を事務局説明(資料3)

島田委員 水質総量規制と水質総量削減の用語の整理を。

津野委員 「水生生物の安定的な漁獲の一層の推進」の「安定的な」は意味深長。「持続可能」という話で、養殖で過度なえさを与えるなどか。案文の「安定的な漁獲のより一層の推進」が、基本方針と同じ意味合いなのか。

池委員 里山的なというか、人間が関与することで、安定を確保するという意味ではないか。つまりバランスの取れたという意味ではないか。

島田委員 「水生生物の安定的な漁獲」が、干潟の保全と、底質改善の間に入っているから収まりが悪い。

海老瀬部会長 国の方針にこの言葉が載っているということもあって、順番だけ変えるということではよいか。干潟の保全再生を、の次に底質の改善で止めて、そして最後、水生生物の安定的な漁獲の一層の推進など、必要な諸施策を講ずるということに。

池委員 貧酸素水塊の悪化という言い方は、文草的には少し違和感がある。

津野委員 貧酸素水塊は、「その程度が悪化する傾向も見えることから」でどうか

池委員 2番目の丸では干潟・藻場の造成などという書き方をしている、最後の(3)は、藻場が抜けていて、整合性がない。

福原委員 干潟・藻場は、「保全再生」で統一を。

○パブリックコメント案について事務局が説明(資料4)

津野委員 文章全体の言葉遣い等、これまでの議論に準じて見直しを。

海老瀬部会長 前からの議論の結果により修正して、パブリックコメント(案)としてよいか。

委員一同 はい。

海老瀬部会長 では、そうさせていただく。